

平成29年度 福岡市立学校教員採用候補者選考試験における選考について (小学校, 中学校, 特別支援学校, 養護教諭, 栄養教諭)

I 本市の求める教員像

本市の教員採用候補者選考試験では、次の「教員像」を基本として選考を行った。

- 公務員としての自覚と高い倫理観, 教育者としての情熱と強い使命感を持つ人
- 広く豊かな教養と社会性を備え, 教育専門家としての確かな力量を持つ人
- 心身ともに健康で, 子どもへの愛情と豊かな人間性を持つ人

II 選考基準

1 第1次試験の選考

(1) 各試験科目の配点

試験科目	教養試験 ※1	教養試験 (一般教養分野のみ) ※2	専門教科	専門教科 (特別支援教育)	論文	面接 ※3
配点	100点	50点	75点	75点	50点	30点

※1 一般選考(免除なし)区分及び特別選考(障がい者)区分における受験者が受験

※2 ※1以外における選考区分の受験者が受験

※3 筆記試験における成績上位者が受験

(2) 第1次試験の合格者数

採用区分	合格者数
小学校	採用予定者数の2倍程度
中学校	採用予定者数の3倍程度
特別支援学校(小学部・中学部)	採用予定者数の2倍程度
養護教諭	採用予定者数の4倍程度
栄養教諭	採用予定者数の3倍程度

※合格者数は一般選考と特別選考を合わせた数

(3) 選考方法

①筆記試験

○特別選考

ア 各試験科目について、不可とする基準(不可の試験科目が一つでもある場合は不合格となるもの)を設定し、全ての科目で基準に該当しない者を第1次面接対象者とする。

【不可とする基準：下記の基準点未満、もしくは基準ランクに該当する場合は不可】

試験科目	教養試験 (一般教養分野のみ)	論文
基準点 基準ランク	20点	C・Dランク

※社会人等特別選考の専門教科及び専門教科（特別支援教育）の「不可とする基準」は、一般選考と同様とする。

※障がい者特別選考の各試験科目の「不可とする基準」は、一般選考と同様とする。

※論文試験ランク

ランク	説明
Aランク	優れている
Bランク	標準を上回る
Cランク	論旨、論文構成等がやや不十分である
Dランク	論旨、論文構成等が不十分である

イ 教職大学院修了者特別選考における書類選考（第1次試験前に実施）

- ・ 志願者から提出された教職大学院における研究実績等に基づき、選考を行った。

ウ スポーツ・芸術特別選考における書類選考（第1次試験前に実施）

- ・ 志願者から提出された特定分野における実績（出場した大会のレベルや成績内容など）に基づき、選考を行った。

○一般選考

第1次試験面接対象者予定数から特別選考における第1次面接対象者数を除いた数を一般選考における第1次面接対象者数とする。

ア 教職教養分野免除者の選考

- ・ 試験科目の免除を受けない者を含む一般選考受験者を、「専門教科の得点」(※1)及び「教養試験（一般教養分野）の得点」の合計の高い者から並べ、上位から一般選考における第1次面接対象者数までの順位内にある者のうち、教職教養分野免除者を第1次面接対象者とする。

※1 特別支援学校教諭については「専門教科の得点」を次のように読み替える。

- ・ 小学部受験者
特別支援教育に関する専門教科の得点及び専門教科(小学校)の得点
- ・ 中学部受験者
特別支援教育に関する専門教科の得点及び専門教科(各教科)の偏差値

イ 試験科目の免除を受けない者の選考

- ・ 試験科目の免除を受けない者を、「専門教科の得点」(※1)及び「教養試験の得点」の合計の高い者から並べ、上位から、一般選考における第1次面接対象者数からアで対象となった数を除いた数までの順位内にある者を第1次面接対象者とする。

※1 特別支援学校教諭については「専門教科の得点」を次のように読み替える。

- ・小学部受験者
特別支援教育に関する専門教科の得点及び専門教科(小学校)の得点
- ・中学部受験者
特別支援教育に関する専門教科の得点及び専門教科(各教科)の偏差値

ウ 試験科目における「不可とする基準」の設定

- ・各試験科目について、不可とする基準（不可の試験科目が一つでもある場合は不合格となるもの）を設定する。

【不可とする基準：下記の基準点未満の場合は不可】

試験科目	教養試験	教養試験 (一般教養分野のみ)	専門教科	専門教科 (特別支援教育)
基準点	54点	20点	下表参照	35点

試験科目	専門教科												
	小学校・ 特別支援学校 小学部	中学校・特別支援学校中学部										養護 教諭	栄養 教諭
		国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 体	技 術	家 庭	英 語		
基準点	32点	35 点	35 点	31 点	30 点	32 点	32 点	26 点	39 点	31 点	34 点	34 点	33 点

②面接試験

「不可とする基準」の設定

- ・不可とする基準を設定し、下記基準に該当しない者を合格とする。

試験科目	面接
基準ランク	Cランク

※面接試験ランク

ランク	説明
Aランク	標準を上回る
Bランク	標準的である
Cランク	標準を下回る

2 第2次試験の選考

(1) 各試験科目の配点

採用区分	面接	実技 (配点は下表参照)
「小学校」, 「特別支援学校小学部」, 「中学校」: 理科, 音楽, 美術, 保体, 技術, 家庭, 英語 「特別支援学校中学部」: 理科, 音楽, 美術, 保体, 技術, 家庭, 英語	120点	※
「中学校」: 国語, 社会, 数学 「特別支援学校中学部」: 国語, 社会, 数学 「養護教諭」, 「栄養教諭」	120点	—

※実技配点

試験科目	実技								
	小学校・ 特別支援学校小学部		中学校・特別支援学校中学部						
	音楽	英会話	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
配点	6点	10点	40点	42点	90点	70点	100点	70点	43点

(2) 選考方法

- ア 採用区分ごとに面接得点の高い者から順に並べ、得点状況などを勘案しながら、区分ごとに合格者を決定する。
- イ 試験科目における「不可とする基準」の設定
- 面接及び実技について、不可とする基準（不可の試験科目が一つでもある場合は不合格となるもの）を設定する。

【不可とする基準：下記のランクの場合は不可とする】

試験科目	面接	実技
基準(ランク)	C・Dランク	Cランク

※面接試験ランク

ランク	説明
Aランク	優れている
Bランク	標準的である
Cランク	標準をやや下回る
Dランク	標準を下回る

※実技試験ランク

ランク	説明
Aランク	標準を上回る
Bランク	標準的である
Cランク	標準を下回る

Ⅲ 各試験科目の評定及び問題等の閲覧

1 第1次試験

(1) 教養試験・専門教科等の閲覧

問題、解答及び設問ごとの配点は、平成28年11月上旬以降、福岡市情報プラザで閲覧できる。

(2) 論文（特別選考）の評定

論文の試験問題は、平成28年11月上旬以降、福岡市情報プラザで閲覧できる。

試験科目	評定の観点
論文	○ 教員としての適性について、意欲、力量、姿勢、論文構成力などの観点から評定する。

(3) 面接の評定

試験科目	評定の観点
面接	○ 社会人基礎力、同僚性、コミュニケーション力などの観点から社会人としての資質などを総合的に評定する。

2 第2次試験

(1) 面接試験の評定

模擬指導の問題(例)は、平成28年11月上旬以降、福岡市情報プラザで閲覧できる。

試験科目	評定の観点
面接	○ 「本市が求める教員像」の要素を基本とし、主としてコミュニケーション能力、情緒安定性、社会性、対人関係構築力、責任感、積極性などの観点から、教員としての資質、適格性、人物性を総合的に評定する。

(2) 実技試験の評定

実技試験の実施要領は、平成28年11月上旬以降、福岡市情報プラザで閲覧できる。

① 小学校・特別支援学校小学部

試験科目	評定の観点
音楽実技	○ 歌唱と伴奏の相互のバランス、技能、曲想のとらえ方などの観点から評定する。
英会話実技	○ ネイティブスピーカーとの自然な対話の継続などの観点から評定する。

② 中学校・特別支援学校中学部

試験科目	評定の観点
理科実技	○ 「オオカナダモの葉を使って、光合成がどこで行われているかを調べる実験」についての説明及び演示実験を交えた模擬授業を通して、基本的授業力及び実験器具の使用法、実験技能などの観点から評定する。
音楽実技	① 課題曲：「荒城の月」（作詞／土井 晩翠，作曲／滝 廉太郎）をピアノ伴奏しながら歌唱することを通して、歌唱と伴奏の相互バランス、技能、表現力、曲想のとらえ方などの観点から評定する。 ② 和楽器演奏：箏を平調子に調弦し、「さくらさくら」に4小節の前奏を創作し、続けて同曲を暗譜で演奏することを通して、箏の調弦法及び演奏力の観点から評定する。
美術実技	○ ①，②について、発想・構想、表現技法、完成度、鑑賞、授業力・指導力などの観点から評定する。 ① 平面構成（ピクトグラム制作） ② 模擬授業（ポスターのデザイン）
体育実技	○ 6種目の技能について実技技能の観点から評定する。 ① 陸上：20m シャトルラン ② 器械運動（マット運動） 男子：前方倒立回転とび～側方倒立回転 1/4 ひねり～後転倒立 女子：伸膝前転～側方倒立回転 1/4 ひねり～倒立前転 ③ 球技 バレーボール：直上パス（オーバーハンド，アンダーハンド） バスケットボール：ドリブルシュート，ジャンプシュート ④ 水泳（50m：平泳ぎ 25m ～ ターン ～ クロール 25m） ⑤ 柔道：横受け身，後ろ受け身 ⑥ 選択種目（次の中から1種目を選択） ・剣道：切り返し，面打ち ・ダンス：現代的なリズムに乗っての自由表現（ステップ・キック・ターン・ポーズを入れる。）
技術実技	○ 木材加工及びエネルギー変換（蛍光灯製作） 木材加工及びエネルギー変換に関する技能・態度について、機材・道具の使い方，材料の取り扱い方などの観点から評定する。
家庭実技	○ ランチョンマットの製作 製作に関する技能及び態度について，安全に留意しながら裁縫道具の適切な取り扱いができるかなどの観点から評定する。
英語口述	○ ①，②について，英語の聞き取り・書き取り，発音，文法の正確さ，流暢さ，発話内容的的確さ，意欲，態度などの観点から評定する。 ①リスニング及びディクテーション ②英語による模擬授業を含む口述試験